



JSDA

日本証券業協会

Japan Securities Dealers Association

第36回 国際証券業協会会議(ICSA) 年次総会の模様について



ICSA International Council of Securities Associations



2023 ICSA
The 36th Annual General Meeting

2023年7月
日本証券業協会

1. 開催概要①

1) 開催日	2023年6月18日(日) ～20日(火)
2) 開催地	韓国(ソウル、参集形式による実開催)
3) 参加者	・総会 38名(メンバー機関のみ) ・公開セッション 約200名(現地当局トップを含む政府・議会関係者、市場関係者、メディア、研究者等)

4) 今回のポイント

- 約4年ぶりにほぼ全メンバーが参集しての対面会合となった(前年<於:米国>は、本協会も含めアジアのメンバーの大半は総会のためのオンライン参加)。
- 総会の本会合では、ICSAの年間活動報告、役員選任、予算の承認等が行われた。
- 公開セッションでは、ICMA(国際資本市場協会) CEからの国際金融市場に関する基調講演(要旨はP.4)のほか、6つのパネル討議が行われた。会合では、幅広いトピックが取り上げられていたが、特に以下の点に関する議論が活発であったとの印象。
 - ✓ サステナブル・ファイナンス全般(トランジション・ファイナンス、グリーンウォッシングの抑止、サステナビリティ開示等)
 - ✓ 金利・物価情勢が資本市場に与える影響及び金融安定を巡る論点
 - ✓ 金融業における革新的ITの活用(トークン化有価証券、AI、データ活用)の展望と留意点等
 - ✓ 高齢化社会を踏まえた資産形成・運用のあり方と証券市場の果たしうる役割

1. 開催概要②

4) 今回のポイント(続き)

- わが国からは、サステナブル・ファイナンス、フィンテック(トークン化有価証券)、高齢化社会における資産管理の各パネルに登壇し、日本における取組み等について紹介した。
- 公開セッションには、ICSAメンバーのほか、現地(韓国)の市場関係者も加わって全体で200名を超える聴衆が参加し、かなりの盛況となった。
- 次回の年次総会は、来年5月にドイツ(フランクフルト)にて開催予定。

年次総会の模様



公開セッションの模様



2. プログラム

6月19日(月) ICSA会員のみ参加

09:10- 11:00

ICSA年次総会

13:00- 14:00

パネル討議: サステナビリティ — 資本市場が直面している課題と展望 ※1

14:00- 15:00

パネル討議: 世界的な景気変動/地政学リスクの中での資本市場

6月20日(火) 公開セッション

09:05- 09:25

歓迎挨拶: バク・ハイラン国家政策委員会委員長、キム・ジュヒョン金融サービス委員会委員長等

09:25- 10:15

パネル討議: 国際政治の見通しと資本市場への影響

10:15- 10:30

基調講演: ブライアン・パスコー (ICMA チーフ・エグゼクティブ)

10:45- 11:55

パネル討議: デジタライゼーションとテックイノベーションを取り入れる金融業

13:00- 14:00

パネル討議: リスク性資本の市場整備

14:00- 15:00

パネル討議: 市場構造における新たな流れ ※2

15:15- 16:15

パネル討議: ウェルス・マネジメントの潮流 — 生涯収入と退職の再定義 ※3

※1 日証協がパネリストとして参加

※2 STO協会 顧問弁護士 アンダーソン・毛利・友常法律事務所 河合パートナーがパネリストとして参加

※3 フィンウェル研究所 野尻代表がパネリストとして参加

3. 基調講演の概要

基調講演 - ブライアン・パスコー ICMAチーフ・エグゼクティブ

債券市場全般

- 08年の金融危機や12年の欧州危機以降、国債市場に加えクレジット市場や社債市場の拡大により債券の市場規模は大きく成長している。これは債券ファンド/ETFの急増、レバレッジを活用した買い手の参入、低金利下で債券の需要が大幅に増加したことを要因とする。一方で、米国以外では、銀行借入れと比較すると、社債による資金調達は依然として規模が小さく、社債市場はさらなる成長余地がある。
- 近年の債券市場における大きなテーマは、グリーンボンドをはじめとするESG債の発行の大幅な増加である。世界の債券発行額に占めるグリーンボンドの割合は今や15%を超え、年間1兆ドル規模のグリーンボンド市場はさらに大きく成長すると期待される。市場のさらなる発展のためには、タクソミーや開示などの国際的な調和による使い勝手の向上が肝要である。

金融規制の影響

- 市場の規模が拡大するにつれて、金融部門の流動性供給能力が劇的に低下してきていることは、市場の構造的な問題の一つである。資本と流動性の両分野において金融システムにおけるカウンターパーティ・リスクを削減することを主な目的とする規制は、リスク選好度を一段と抑制し、金融機関がリスク資産を保有、流通させる能力を低下させている。

デジタライゼーションの効果

- 決済の効率性、担保管理、証拠金のやり取りは、技術革新によって大幅に効率化する可能性がある。発行、決済等に何らかの形でDLTが適用された新規発行が50件を超えている。もっとも、そのようなイノベーションの便益が幅広く享受されるようになるのは、現実的にはまだ数年先とみている。

4. 組織運営及び活動報告①

役員選任

- 主な内容 ■ スウェーデン(典)SSMAのUrban Funered氏が議長に選任された。合わせて、ICSA理事会のメンバーが下記の通り選任された。

理事会		
議長 典SSMA	年次総会ホスト 独BWF	大規模メンバー代表 欧AFME、欧ICMA、日JSDA、米SIFMA
米州代表 加IIAC	アジア大洋州代表 印BBF	欧州代表 仏AMAFI、デンマークCMD

財務報告

- 主な内容 ■ Peter Eisenhardt事務局長より、2022年度(22年4月～23年3月)の財務報告について説明があり、全会一致で承認された。また、来年度の予算及び会費については本年第4四半期に中間会合を特別総会として招集し、その場で検討することとされた。

4. 組織運営及び活動報告②

中間会合及び次回年次総会

- | | |
|----------|---|
| 主な
内容 | <ul style="list-style-type: none">■ 今年度の中間会合については10月29日～11月1日にムンバイで開催されるASF年次総会の開催に合わせ、10月31日に同地にてハイブリット方式で開催する方向性が提案され、承認された。■ 次回年次総会のホストであるドイツBWFから、2024年の年次総会の概要について紹介された。開催日を2024年5月19日～21日(同月22日よりブラッセルで開催されるICMA AGMの直前)とすることについて提案され、承認された。 |
|----------|---|

IOSCO年次総会(タイ バンコク)に関するレビュー

- | | |
|----------|--|
| 主な
内容 | <ul style="list-style-type: none">■ 6月13日～15日に開催されたIOSCO年次総会(バンコク)の様様について事務局及び参加メンバーより紹介が行われた。 |
|----------|--|

メンバー機関による課題の共有、今後のICSA Briefing

- | | |
|----------|---|
| 主な
内容 | <ul style="list-style-type: none">■ 多くの参加メンバーにおいて、サステナブルファイナンス関連の取組みを推進しており、特にグリーンウォッシングを課題認識していた。その他にもデジタルイゼーションやフィンフルエンサーをトピックに掲げるメンバーあり。■ またメンバーが興味を有している分野として、EUのサステナブルファイナンスに関するアップデート、米国のT+1化が提案され、今後ICSA Briefingのテーマとしていくこととされた。 |
|----------|---|

開会の挨拶

ICSAの組織運営

- ・ 中間会議議事録の承認
- ・ ボードメンバーの選出
- ・ 財務諸表(2022-23)の承認
- ・ 中間会合(10月31日 ムンバイ(ASF年次総会との同時開催))
- ・ 2024年年次総会(ドイツ フランクフルト)

IOSCO年次総会(タイ バンコク)に関するレビュー

今後のICSA Briefing

メンバー機関による課題の共有(ラウンドテーブル)

(参考2)ICSAの概要(1)

名称	国際証券業協会会議:International Council of Securities Associations (ICSA)
設立目的	国際証券市場における取引慣行及び規則の調和を図り、メンバー間の情報交換及び理解を促進し、国際証券市場の健全な発展に寄与すること。(ICSA規約)
設立時期	1988年(本協会の提唱により設立)
メンバー	各国(地域)証券市場の自主規制機関及び業界団体 ・現在のメンバー 19ヶ国(地域)20団体(正会員17団体、客員会員3団体)
会合等	1. 年次総会(Annual General Meeting) メンバーの持ち回りで、例年春に3日間(事前会合を含む)にわたって開催される。総会の各セッションでは、証券業界において関心が高まっているトピックについて、通常メインスピーカーがプレゼンを行った後、メンバーが意見交換を行う。トピックは、メンバーから募集した上で、事務局がホスト団体と協議し決定する。 2. 中間会合(Interim Meeting) メンバー間の意見交換、年次総会の打合せ等を目的に毎年秋～冬に開催。 3. 理事会(Board) ICSA議長、大規模メンバー代表3、アジア大洋州代表1、米州代表1、欧州等代表2及び次回年次総会を主催するメンバーで構成。2ヶ月に1回程度、電話での会議を開催。ICSA全体の諸課題や運営等について協議し、重要事項については、承認を得るため年次総会等で提案する。

(参考2)ICSAの概要(2)

会合等	4. 常設委員会(Standing Committee) 証券市場で問題となっている課題について、専門家を交えた検討グループを組成して協議するほか、必要に応じ各種の「原則」・「声明」・「ベストプラクティス」を策定する。これらは、原則として年次総会等で承認を得た上で公表される。 現在活動中の常設委員会は、以下のとおり。 ・新興市場 (Emerging Markets) ・会員勧誘 (Membership) 5. その他 必要に応じ、個別の課題に関するワーキング・グループを設置。
議長	Urban Funered(スウェーデン証券市場協会(SSMA)CEO)(任期1年、3年まで再任可)
事務局長	Peter Eisenhardt (ロンドンのICMAオフィス内で執務)

(参考2)ICSAの概要(3)

○ ICSAメンバー一覧 正会員

	機関名	概 要
日本	日本証券業協会(JSDA)	自主規制機関+業界団体
韓国	韓国金融投資協会(KOFIA)	自主規制機関+業界団体
台湾	台湾証券業協会(CTSA)	自主規制機関+業界団体
豪州	豪州金融市場協会(AFMA)	業界団体。2005年にICSAメンバーであった国際銀行証券協会(IBSA)と合併。
米国	証券業金融市場協会(SIFMA)	業界団体。米国証券業者協会(SIA)と債券市場協会(TBMA)が合併して2006年11月に発足。
カナダ	カナダ投資業協会(IIAC)	業界団体。2007年加入。
欧州	国際資本市場協会(ICMA)	欧州証券市場の自主規制機関+業界団体。2005年にICSAメンバーであったスイスの国際証券市場協会(ISMA)と英国の国際発行市場協会(IPMA)の合併により発足
	欧州金融市場協会(AFME)	欧州金融市場の業界団体。2009年にICSAメンバーであったロンドン投資銀行協会(LIBA)とSIFMA欧州支部の合併により発足。
フランス	フランス金融市場協会(AMAFI)	自主規制機関+業界団体。
ドイツ	ドイツ証券取引所参加者協会(BWF)	業界団体。2008年加入。
イタリア	イタリア金融仲介業者協会(ASSOSIM)	業界団体
スウェーデン	スウェーデン証券市場協会(SSMA)	自主規制機関+業界団体
デンマーク	デンマーク資本市場協会(CMD)	業界団体
トルコ	トルコ資本市場協会(TCMA)	自主規制機関+業界団体。2006年加入。
インド	ボンベイ証券取引所仲介者フォーラム(BBF)	業界団体。2013年加入。
アジア	アジア証券業金融市場協会(ASIFMA)	業界団体。2021年加入。
ブラジル	ブラジル金融資本市場協会(AMBIMA)	自主規制機関+業界団体。2021年加入。

(参考2)ICSAの概要(4)

○ ICSAメンバー一覧 客員会員(Correspondent Member)

	機関名	概 要
メキシコ	メキシコ証券業協会(AMIB)	業界団体。2012年客員会員加入。
タイ	タイ証券業協会(ASCO)	業界団体。2012年客員会員加入。
ニュージーランド	ニュージーランド証券市場協会(NZFMA)	業界団体。2017年客員会員加入。

○オブザーバー

	機関名	概 要
ベトナム	ベトナム証券業協会(VASB)	業界団体

○ 年次総会開催地

1988年	日本	東京	2006年	日本	東京
1989年	カナダ	オタワ	2007年	カナダ	トロント
1990年	米国	ワシントン	2008年	韓国	ソウル
1991年	英国	ロンドン	2009年	米国	ワシントン
1992年	日本	大阪	2010年	トルコ	イスタンブール
1993年	フランス	カンヌ	2011年	英国	ロンドン
1994年	オーストラリア	シドニー	2012年	デンマーク	コペンハーゲン
1995年	スイス	ルツェルン	2013年	オーストラリア	シドニー
1996年	カナダ	バンクーバー	2014年	フランス	パリ
1997年	韓国	ソウル	2015年	インド	ムンバイ
1998年	米国	サンフランシスコ	2016年	スウェーデン	ストックホルム
1999年	英国	スコットランド(グレンイーグルス)	2017年	メキシコ	メキシコシティ
2000年	台湾	台北	2018年	台湾	台北
2001年	フランス	パリ	2019年	イタリア	ミラノ
2002年	オーストラリア	シドニー	2020-21年	Web	
2003年	イタリア	ローマ	2022年	米国	ワシントン
2004年	スウェーデン	ストックホルム	2023年	韓国	ソウル
2005年	スイス	ルガノ	2024年	ドイツ	フランクフルト(予定)